

iStorage NS500Ri ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠におそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) システムROMの機能に関する注意事項
- 3) iLO 5 の機能に関する注意事項
- 4) OSに関する注意事項
- 5) 全般の機能に関わる注意事項
- A) 誤記訂正

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、下記サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」で、「3170102200」を入力して検索してください。

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。

Web に掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-007.01 以上を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-007」を検索)

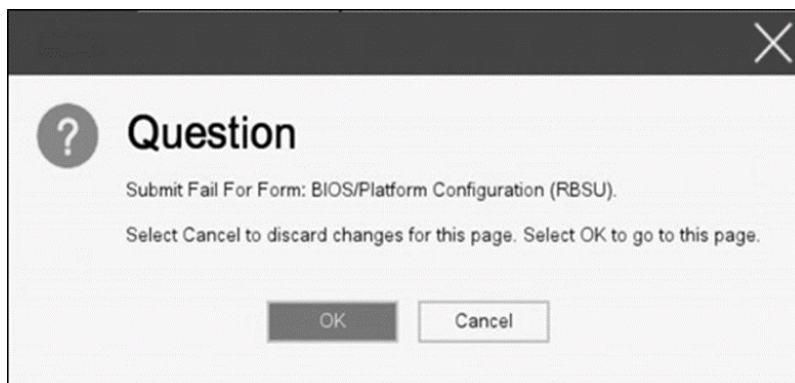
● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時等に伴う保守作業に際し、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせによっては、保守作業に時間を要することがあります。

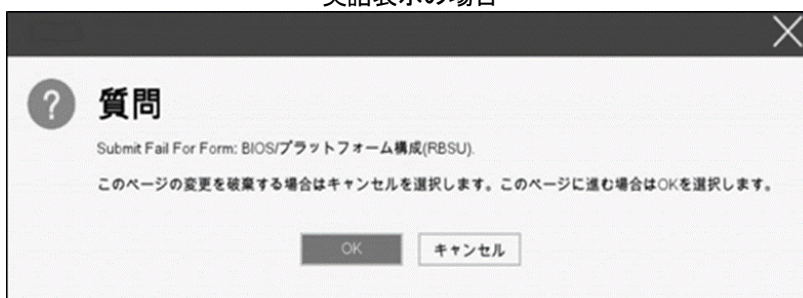
● Submit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップ表示についての注意事項

システムユーティリティにおいて設定の変更中に、次のSubmit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップが表示された場合は、「キャンセル」を選択して変更を破棄してください。

さらに、サーバーの再起動を行ってシステムユーティリティに入りなおしてから設定の変更を再度行ってください。もし「OK」を押してそのまま設定変更を進めると、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。



英語表示の場合

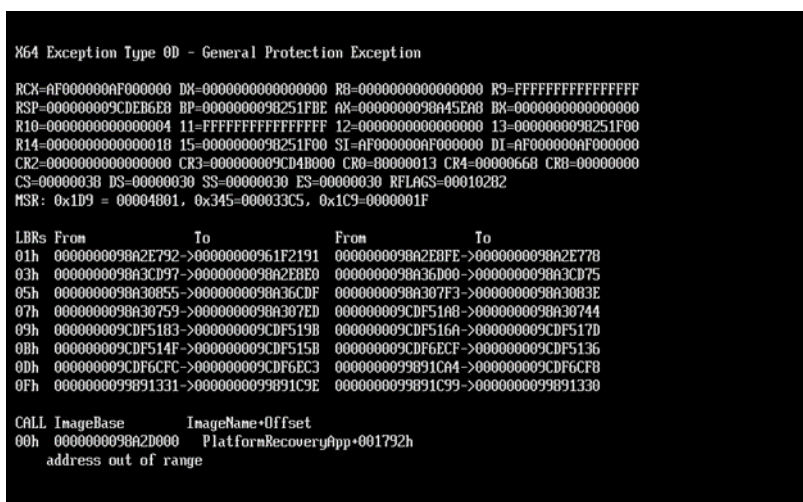


日本語表示の場合

● 赤文字画面 (RSOD : Red Screen of Death)が表示された場合の対処について

装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合や、接続デバイスへのアクセスタイミングにより、OS起動前に稀に赤文字画面 (RSOD) が表示され、本製品の操作が出来なくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があり電源OFF/ONによって回復します。

赤文字画面 (RSOD) が表示された場合、装置の電源OFF/ONをお願いします。
問題が解決しないときは、保守サービス会社にお問い合わせください。



赤文字画面の例

● 「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合、システムメンテナンススイッチのSW6によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。

詳細な手順は、メンテナンスガイド「1章(7.3.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」の項をご参照ください。

● シリアルコンソールにPOSTデバッグ情報が出力される件について

システム ROM v2.32 (03/09/2020)において、POST 実行時、まれに POST デバッグ情報がシリアルポートに出力され、POST 実行時間がおおよそ2分長くなることがあります。

システム ROM v2.34 (04/09/2020)では、この問題が修正されています。

● Server Configuration Lock (SCL) についての注意事項

- (1) システム運用中は SCL 機能を無効にし、使用しないでください。
- (2) SCL 機能有効時に設定するパスワードは大切に保管してください。SCL のパスワードを紛失した状態で、SCL 機能によりロック (OS ブート前に停止) されると、ロック解除できず、二度とブートできなくなります。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

なお、SCL のパスワードを紛失した場合、SCL のパスワードをクリアする方法はありません。

- (3) 保守を依頼する際は、SCL 機能を無効化していただく必要があります。
SCL 機能を無効にできない場合、保守は有償にて承ることになります。
- (4) RBSU の「Halt on Server Configuration Lock failure detection.」機能は有効化しないでください。もし有効に設定した場合、SCL 機能が回復不能条件の該当を検出し、ロック (OS ブート前に停止) されてしまうと、システムユーティリティも起動できず、二度とサーバー構成ロックを無効にすることができません。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

SCL 機能の回復不能条件

- RBSU の設定変更によりロックされた場合
- ファームウェア更新によりロックされ、元のファームウェア バージョンに戻すことができない場合
- DIMM、または PCI オプションカードの故障によりロックされた場合

● RESTful インターフェースツールによるRBSU設定のバックアップ(保存)とリストア(復元)の注意事項

iLO5 ファームウェアバージョン 2.40以上の場合、RESTful インターフェースツールを使用したRBSU設定の保存と復元は使用できません。

RBSU設定の保存と復元は、システムユーティリティのBackup and Restore Settingsメニューから行ってください (メンテナンスガイド(共通編)の「システムユーティリティのRBSU 設定の保存と復元」を参照)。

● フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) の仕様変更について

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) の仕様に変更があります。下記、変更点を記載します。

- システムROMのバージョンがv2.00 (02/02/2019)以降、CPUあたりDIMM 8枚、もしくはDIMM 12枚以外の構成であっても、フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) が使用できる構成であれば、本機は自動的に設定が変更し、同機能の使用を始めます。
- システムROMのバージョンがv2.10 (05/21/2019)以降、各チャネルあたりのRANK数の合計が2以上になるようにメモリを搭載しなくても、フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) は利用できます。
- システムROMのバージョンがv2.10 (05/21/2019)以降、フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) が使用可能なDIMMとして、N8102-709が加わります。

● システムユーティリティおよびワнтаイムブートメニューの表示について

- (1) BMC Configuration Utility 配下のメニューの変更権限については、BMC Configuration Utility > Setting Option > Require user login and configuration privilege for BMC Configuration を有効にすることで保護してください。
BIOS/Platform configuration (RBSU) > Server Security > Set Admin Password の設定では保護されません。
- (2) System Information > Processor Information で表示される L2 Cache、L3 Cache の Maximum Size、Installed Size は 1MB を 1024000 バイトに換算した数値で表示されます。
システム ROM のバージョンが v2.00 (02/02/2019) 以降の場合は、1MB を 1048576 バイトに換算した数値で表示されます。
- (3) システム ROM バージョンが v1.36 (02/14/2018)、または v1.36 (02/15/2018) の場合、システムユーティリティ、またはワнтаイムブートメニューを表示したとき、まれにマウスカーソルが黒い四角形の表示となることがあります。
これは、表示のみの問題であり、システムユーティリティ上の操作は正常に機能します。
また、この状態はマウスを操作することで解消します。

● 工場出荷時の設定について

以下の項目については、工場出荷時に以下のように設定しています。

1. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Workload Profile を「Custom」に設定。
2. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Core C-State を「No C-states」に設定。
3. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Package C-State を「No Package States」に設定。

● システムユーティリティについて

- (1) BMC Configuration Utility 配下のメニューの変更権限については、BMC Configuration Utility > Setting Option > Require user login and configuration privilege for BMC Configuration を有効にすることで保護してください。
BIOS/Platform configuration (RBSU) > Server Security > Set Admin Password の設定では保護されません。
- (2) System Information > Processor Information で表示される L2 Cache、L3 Cache の Maximum Size、Installed Size は 1MB を 1024000 バイトに換算した数値で表示されます。
システム ROM v2.00 (02/02/2019) 以上の場合は、1MB を 1048576 バイトに換算した数値で表示されます。

● PCIe Slot X MCTP Broadcast Supportメニューについて (X はPCIe Slot番号)

システム ROM バージョンが v2. 10 (05/21/2019) 以降の装置において、初めて PCIe MCTP Options メニュー(*1) を選択した場合、装置のデフォルト設定を強制的に設定する旨のポップアップ(*2)が、設定可能な PCIe Slot 数分表示されます。

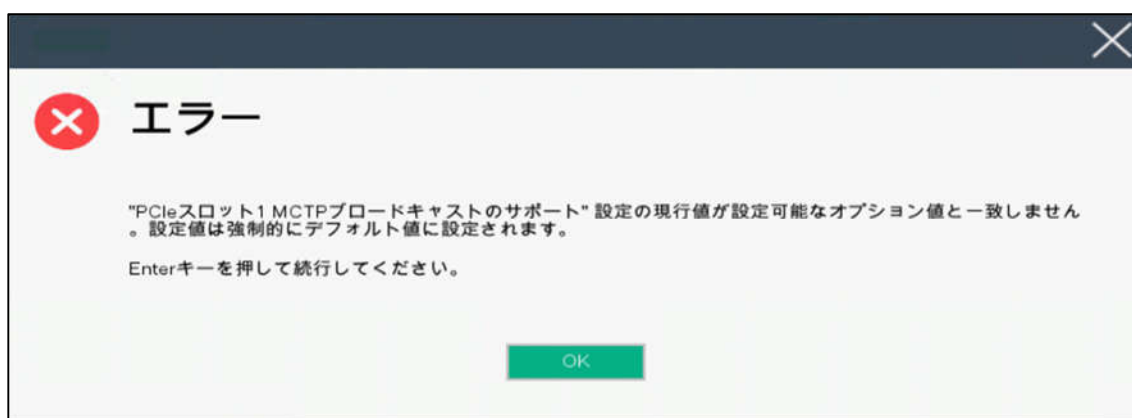
設定を一度保存すると、次回以降ポップアップ表示はされません。

尚、下記システム ROM バージョンの場合、設定保存時にポップアップ(*3)が表示され設定は保存されません。保存されない事により、本メニューを表示させるたびに PCIe Slot 数分のポップアップ(*2)が表示される事になります。この場合、MCTP Broadcast は常に有効で動作します。

- ・ v2. 22 (11/13/2019)
- ・ v2. 30 (02/11/2020)
- ・ v2. 32 (03/09/2020)

*1 : System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe MCTP Options

*2 :



*3 :



● Extended Memory Testオプションの設定値について

システム ROM のバージョンが v2. 36 (07/16/2020) の場合、Extended Memory Test オプションは、自動的に Disabled となります。

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Extended Memory Test

3) iLO 5の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間 (POST (Power On Self Test) 実行中も含みます) は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

たとえばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に動作しない場合や、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。また、POST (Power On Self Test) 実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェース: [Information] - [Overview] ページにおけるUUID、UUID(論理) が不正な表示になる場合があります。不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞

- iLO Webインターフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLO 5ファームウェア1.40以降でiLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy] の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、iLOに対して永続的な変更が行われるため、『Permanently disallow downgrades』に設定後は、iLOの各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。

なお、本設定はSet to factory defaultsオプションからiLOを出荷時のデフォルト設定に設定を行った場合も、リセットされず『Permanently disallow downgrades』を維持します。

● iLOのセキュリティ機能の注意事項

iLO Webインターフェースの[Information] - [Security Dashboard] およびiLO Webインターフェース画面の右上部に  リスクが常に表示されます。

RBSUの設定やiLOの設定の内容次第で、iLOセキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 5ユーザズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「システムユーティリティより、Admin Passwordを設定(※1)した場合や、iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要]設定を有効(※2)に設定した場合の注意事項」に記載がありますので、ご確認ください。

iLO 5ファームウェアのバージョンによって該当する条件が異なります。

iLO 5ファームウェア バージョン	該当条件
1.40	(※1)、および(※2)
1.43以上	(※2)

iLOの負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインターフェース画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● システムユーティリティより、Admin Passwordを設定(※1)した場合や、iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要]設定を有効(※2)に設定した場合の注意事項

- (※1) iLO 5 ファームウェアバージョン : 1.43 未満を適用した環境の場合が対象となります。
[System Configuration] - [BIOS/Platform Configuration (RBSU)] - [Server Security]より、Set Admin Password オプションにてパスワードを設定する。
- (※2) iLO ファームウェアバージョン : 1.40 以上を適用した環境の場合が対象となります。
[Security] - [Access Setting] - [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定する。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・アラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・Starter Pack (Standard Program Package)を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・RAID 通報サービス
- ・サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● iLOの時刻についての注意事項

iLO 5ファームウェア1.45以下でiLOのSNTPの設定が無効の場合、iLOの再起動を行うとiLOの時刻がずれてしまう場合があります。

iLO WebインターフェースにてSNTPの設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。

iLOのSNTPの設定方法については、iLO 5ユーザズガイドを参照してください。

● iLO WebインターフェースのUUID不正値表示について

POST (Power On Self Test) 実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェースの[Information] - [Overview] ページのUUID、UUID(論理)の値が稀に不正な表示となることがあります。

不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● iLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ファイバーチャネルコントローラーが実装されているシステムで、iLO Webインターフェースの言語に日本語が選択されている場合、[システム情報] - [ネットワーク]で表示されるファイバーチャネルコントローラーの“ポートのステータス”が『下へ』と表示されます。

これはファイバーチャネルコントローラーの接続が『ダウン』の状態であることを示しますので、読み替えてご利用ください。

● iLO WebインターフェースのVirtual NIC設定の注意事項

[Security] - [iLO]の“Virtual NIC”のデフォルト値は、iLO5ファームウェアのバージョンにより異なります。BMC構成ユーティリティにて“工場出荷時のデフォルトにセット”を実施した場合は、以下をご確認ください。

- (1) iLO 5ファームウェア : 2.10以上 2.18以下をご使用の場合、デフォルト値は『有効(Enabled)』です。
仮想NICをサポートしていないWindows Server 2012 R2やUSB CDC-EEMドライバがインストールされていないWindows Server 2016/2019上のデバイスマネージャーで「Virtual NIC」が警告表示される場合があります。
[Security] - [iLO]の“Virtual NIC”の設定を『無効(Disabled)』に変更してください。
- (2) iLO 5ファームウェア : 1.40以上 1.47以下、もしくは、2.31以上をご使用の場合、デフォルト値は『無効(Disabled)』です。

● Windows上でのvEthernet (Hyper-V Virtual Ethernet Adapter) 構成時のiLO WebインターフェースのネットワークアダプタのIPv6アドレス表示に関する注意事項

iLO 5ファームウェア : 2.10以上 2.18以下をご使用の場合、Windows OS上でvEthernet (Hyper-V Virtual Ethernet Adapter)が構成されている場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]において、構成されている各[Adapter]の[Network Ports]の” IPv6 Address” において正しいIPv6アドレスが表示されない場合があります。vEthernet構成時のIPv6アドレスに関しては、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● iLO WebインターフェースのNetwork情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成し、iLO 5ファームウェア : 2.31以上をご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● iLO WebインターフェースのDevice Inventory情報の表示について

＜SASエクスパンダ (N8116-51) 構成時＞

iLO 5ファームウェア : 2.31以上をご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Device Inventory]において、SASエクスパンダカードの表示情報が以下のように表示される場合がありますが、サーバの運用およびSASエクスパンダカードの動作に影響はありません。

- Firmware Version : N/A
- Status : Disabled

● iLO Webインターフェースのセキュリティダッシュボードの注意事項

iLO 5ファームウェア1.43以上、2.10未満をご使用の場合、[Information] - [Security Dashboard]に[Last Firmware Scan Result]が表示されますが、本ハイパーリンクをクリックしないでください。

誤ってクリックした場合、Webページ内のメニュー間移動が出来なくなります。その場合、ブラウザのリロードボタンをクリックするか、もしくはいったんiLO Webインターフェースのログアウトを実行して再度ログインしてください。

情報 - セキュリティダッシュボード

概要 セキュリティダッシュボード セッションリスト iLOイベントログ インテグレートドマネジメントログ

Active Health Systemログ 診断

全体セキュリティステータス: OK

セキュリティパラメーター	↓ステータス	状態	無視
セキュリティオーバーライドスイッチ	♥ OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI over LAN	♥ OK	無効	<input type="checkbox"/>
最小パスワード長	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>
iLO RBSUへのログイン要求	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
認証失敗ログ	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
セキュアブート	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
パスワードの複雑さ	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
ホスト認証が必要	♥ OK	無効	<input type="checkbox"/>
最新のファームウェアスキャン結果	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>

日本語表示の場合

Information - Security Dashboard

Overview

Security Dashboard

Session List

iLO Event Log

Integrated Management Log

Active Health System Log

Diagnostics

Overall Security Status : OK

Security State

Production

Server Configuration Lock: Disabled

Security Parameter	↓ Status	State	Ignore
Security Override Switch	♥ OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI Over LAN	♥ OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Minimum Password Length	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>
Require Login for iLO RBUS	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Authentication Failure Logging	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Secure Boot	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Password Complexity	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Require Host Authentication	♥ OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Last Firmware Scan Result	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>

英語表示の場合

● 物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知のロケーション情報欠損に関する対処について

物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知において、ロケーション情報が欠損する場合があります。ロケーション情報に関しては、iLO5 webインターフェースの[情報]-[インテグレートドマネジメントログ]で同じイベントのロケーション情報をご確認ください。

例:

Abnormal, physical drive status change detection, iLO SNMP Trap, mgr_WIN-U6HIHPNIH1Q, uru-rhel83, 192.168.0.57, , 2021/10/01 15:22:57, iLO, 0xc0000be6, "A physical drive status change has been detected. Current status is 3.
(Location: ot 12 Controller: Slot 12)", "If the physical drive status is 'failed(3)', 'predictiveFailure(4)',

● iLO WebインターフェースのAgentless Management Service (AMS)のステータスについて

iLO Webインターフェースの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices]のAgentless Management Service (AMS)のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLOリセットを行ってください。また、その後、10分程度経過した後、以下のAgentless Management Service (AMS)の再起動方法の対象OSを参考に、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

※ Agentless Management Service (AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Storage] や [Network]の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

< Agentless Management Service (AMS) の再起動方法 >

○ Windowsの場合

Windowsの管理ツール → サービス → “Agentless Management Service” を右クリックし、再起動してください。

○ Red Hat Enterprise Linux 7. x/8. xの場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad  
# systemctl restart amsd
```

○ ESXi6. 5/6. 7の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amd.sh restart  
もしくは  
# /etc/init.d/ams.sh restart
```

※ お使いのAMSバージョンによりコマンドが異なります。

○ ESXi7. 0の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amd restart
```

4) OSに関する注意事項

● EXPRESSBUILDERでのWindows「手動」インストールについて

EXPRESSBUILDER から Windows をインストールするとき、「手動」オプションを選択した場合であっても、インストール先ディスクのパーティションがすべてクリアされます。再インストール時、ユーザーデータが存在する場合は注意してください。

● Windows Server OS ご使用時の注意事項

サポート対象の Windows Server OS で USB デバイスをお使いの場合、以下のシステムイベントログが採取されることがあります。

これについては、システム動作上問題ありません。

<イベントログ>

ID : 1
ソース : VDS Basic Provider
レベル : エラー
説明 : 予期しないエラーが発生しました。エラーコード:32@01000004

● Windows Server環境でのAgentless Management Service(AMS)の注意事項

Windows Server環境にAgentless Management Service (AMS) version 1.40.0.0がインストールされている場合、ams.exeプロセスがハンドル数の増加を示します。

ハンドルリークはメモリの過剰消費により時間の経過とともにパフォーマンスの問題を引き起こす可能性があります。

◆本事象はAgentless Management Service (AMS) 1.43.0.0で修正されています。

AMSはStarter Packに含まれています。Starter Pack Version S8.10-006.03以降を適用してください。

すでにAMS 1.40.0.0がインストールされている環境でStarter Pack Version S8.10-006.03を使用する場合は、個別にAMSをアップデートする必要があります。Starter Packが掲載されているWebの内容を確認してアップデートしてください。

◆Agentless Management Service (AMS) 1.40.0.0を使用される場合は、一度以下の手順を実施することでハンドル数は増加しなくなります。

1. 以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行してAMSを停止します。
>net stop ams
2. "C:\Program Files\OEM\AMS\Service"フォルダをエクスプローラで開きます。
3. "storelib.dll"のファイル名を"storelib.dll.bak"に変更します。
4. 以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行してAMSを開始します。
>net start ams

(※1) AMS停止時に以下のメッセージが表示されることがありますが問題ありません。

Agentless Management Service サービスを停止中です..
システム エラーが発生しました。
システム エラー 1067が発生しました。
プロセスを途中で強制終了しました。
Agentless Management Service サービスは正常に停止されました。

(※2) AMS起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが問題ありません。

要求したサービスは既に開始されています。

◆Agentless Management Service (AMS) のバージョンの確認方法には以下の2つの方法があります。

・対象装置のOS上で確認する方法

(1) Windows PowerShellを起動して以下のコマンドを実行します。

> Get-WmiObject Win32_Product | Select-Object Name, Version | Select-String "Agentless Management Service"

(2) コマンド実行結果からバージョンを確認します。

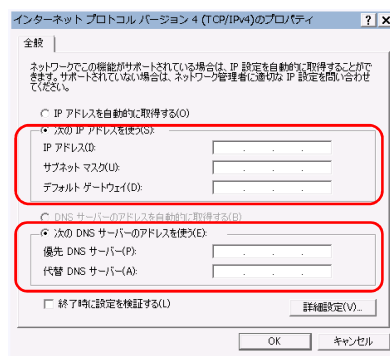
- ・ iLO Web インターフェースを利用して、リモートから確認する方法
 - (1) リモート環境において、Webブラウザから iLO Web インターフェースにログインします。
 - (2) 左メニューの「ファームウェア & OSソフトウェア」を選択し、「ソフトウェア」を選択します。
 - (3) 画面の「Product Related Software」の「ams.exe」のバージョンを確認します。

● Windows Server 2016 環境構築後、CPUボードの構成変更を行う場合の注意事項

- 1) 次のOptionに固定IPアドレス/固定DNSを設定している場合、以下の手順で増設CPUボードを増設してください（CPU増設後も固定IPアドレス設定を引き継ぐために本手順が必要です）。

N8104-173 10GBASE-T接続LOMカード (2ch)
 N8104-177 25GBASE接続LOMカード (SFP28/2ch)
 N8104-182 10GBASE-T 接続ボード (2ch)
 PCI-to-PCIブリッジを持つ増設PCIカード

- a) 該当のオプションを参照するサービスが自動起動しないように設定を変更し、サービスを停止する。また、該当のオプションにストレージを接続している場合、以下の作業前に該当のオプションからLANケーブルを外す等ストレージを認識しないようにする。
- b) 該当のオプションでLANのチーミング設定をしている場合、チーミングを解除する。
- c) 該当のオプションのIPアドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイ/優先DNSサーバー/代替DNSサーバーを記録する（下記の赤字部分）。



- d) 該当のオプションのIPアドレスを「IPアドレスを自動的に取得する」、DNSアドレスを「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」に設定変更する。
- e) 増設CPUボードをユーザーズガイドに従って増設する。
- f) 該当のオプションに手順c)で記録したIPアドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイ/優先DNSサーバー/代替DNSサーバーを設定する。
- g) LANのチーミングを再設定する。
- h) 手順 a)で設定変更したサービスを自動起動するように再設定する。また、該当のオプションにストレージを接続していた場合、LANケーブルを再接続しストレージを認識できるようにする。



上記手順で行わなかった場合、固定IPアドレスがほかのデバイスで使用されている等のメッセージが表示されて固定IPアドレスが設定できないことがあります。

その場合、以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行して、デバイスマネージャを起動してください。その後、[表示] - [非表示デバイスの表示] をクリックし、ネットワークアダプタツリーを展開し、グレー表示になっている未使用のデバイスを削除してください。

```
>set devmgr_show_nonpresent_devices=1
>Start DEVMGMT. MSC
```

ESMPRO/ServerManagerでネットワークを参照した場合、増設CPUボードの構成変更後にネットワークカードが重複して表示されます。OS上で見えないネットワークデバイスの詳細は「Unknown」と表示されますので、無視してください。

● ESMPRO/ServerManager (Windows版)およびエクスプレス通報サービス(MG)に関する注意事項

本製品の iLO ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager (Windows 版)およびエクスプレス通報サービス(MG)のバージョンの組み合わせによってはESMPRO/ServerManager (Windows 版)およびiLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。

以下をご参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。

各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

◆ESMPRO/ServerManager (Windows 版)に関する発生現象

iLO ファームウェア	ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)	発生現象
Version 2.10 以上	Version 6.25 未満	<ul style="list-style-type: none"> 構成タブ - サーバー状態 “SNMP 通報設定” が “取得に失敗しました” と表示される リモート制御タブ - iLO 情報 - IML の表示、IML の保存 IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができない アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに “不明タイプ” のアラートとして表示される
	Version 6.47 未満	<ul style="list-style-type: none"> アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは “不明タイプ” のアラートとして表示される

◆ESMPRO/ServerManager (Windows 版)のアップデート方法

- (1) 以下より最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524>
- (2) 「ESMPRO/ServerManager Ver.6 インストールガイド(Windows 編)」の「2 章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager をアップデートします。

◆iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルに関する発生現象

※エクスプレス通報サービス(MG)をご利用されている方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
Version 2.10 以上	ilo_jp.mtb Version 1.4.0 未満	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。
	iml_jp.mtb Version 1.5.0 未満	※受信情報設定ファイルをアップデートした場合であっても、ESMPRO/ServerManager がアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。
	※iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイルは2種類 あります。	

◆iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法

- (1) 以下より最新版の受信情報設定ファイル(ilo_jp.mtb、iml_jp.mtd)をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096>
ilo_jp.mtb、iml_jp.mtd は MGMTB.zip に包含しています。
- (2) 「エクスプレス通報サービス(MG) インストールガイド(Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。
- (3) (1)でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。
「エクスプレス通報サービス(MG) インストールガイド(Windows 編)」は以下の URL からダウンロードしてください。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

◆ iLO ファームウェアのバージョン確認方法

・ Server Health Summary で確認する方法

サーバー本体の UID ボタンを押下して、サーバーに接続されたコンソールに表示される iLO Firmware のバージョンを確認します (Server Health Summary の詳細は iLO 5 ユーザーズガイド参照)。

・ ネットワーク経由で確認する方法

iLO にネットワーク接続可能な場合、ブラウザから iLO にログインして、メニュー「ファームウェア & OS ソフトウェア」から iLO のバージョンを確認します。

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のバージョン確認方法

- (1) ESMPRO/ServerManager の WEB にログインします。
- (2) 画面右上の「ESMPRO/ServerManager について」のリンクを選択します。
- (3) 表示される ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を確認します。

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法

「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」が「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

● OS の修復時に記録されるイベントについて

メンテナンスガイドの「6.2 OS の修復」に記載の手順にて OS の修復を行った際、システムイベントログに以下のようなイベントが記録される場合がありますが、「6.2.1 (4) StarterPack の適用」を実施する前に記録されたものは、システム運用上問題はございません。

ソース : Smart Array Events
イベントID : 24607
レベル : 警告
説明 : The event information received from array controller P408i-a SR Gen10
[Embedded] was of an unknown or unrecognized class.
An excerpt of the controller message is as follows: xxxxxxxx

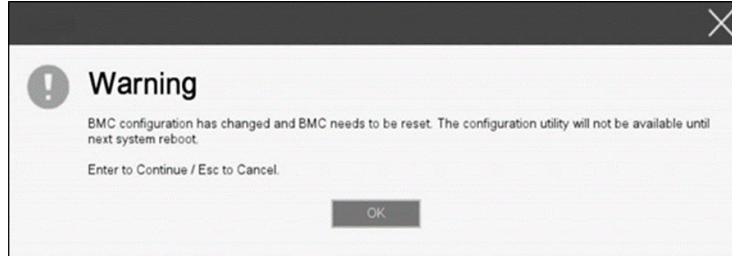
5) 全般の機能に関わる注意事項

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

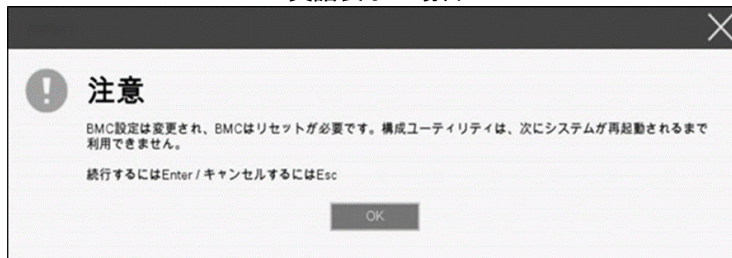
システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。

注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止、あるいは、装置に記録されているSerial Number、Product IDの消失が発生する場合があります。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLOの再起動を行うために、次のWarning(注意)ポップアップが表示されることがあります。

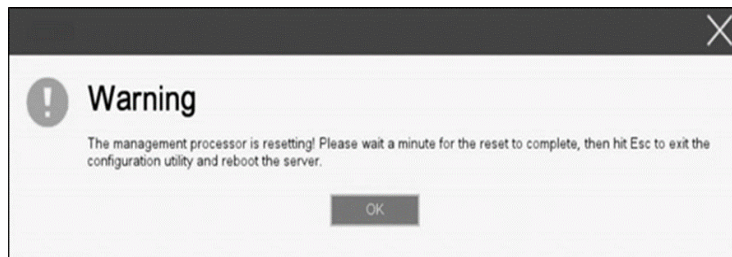


英語表示の場合



日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。
- (3) 次のWarning(注意)ポップアップの表示されます。
このWarning(注意)ポップアップが表示されている状態にて、**必ず1分以上お待ちください。**
その間、何も操作しないでください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- (4) 1分以上経過後、装置前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
※ iLOが再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒1回)
iLOの再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
- (5) 再起動の完了が確認できたら、「OK」を押してください。
- (6) <ESC>キーを複数回押してシステムユーティリティの画面に戻ります。
- (7) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

● Serial Number、Product ID が消失された場合の対処について

Serial Number、Product IDが消失された場合、以下の手順にて復旧することができます。

- (1) 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外します。
- (2) 30秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続します。
- (3) POWERスイッチで装置の電源をONにします。
- (4) サーバーが起動し、POST画面が表示されます。
- (5) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。もし、システムユーティリティが起動できない状態になっている場合は、「1章(7.3.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」を参照し、システムメンテナンススイッチを操作して、RBSU設定の初期化をします。
- (6) システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、Serial NumberとProduct IDの値を確認します。
- (7) Serial NumberとProduct IDの値が期待する値の場合は、手順14)に進みます。
- (8) Serial NumberとProduct IDの値が期待する値ではない（消失している）場合は、システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options」を選択します。
- (9) 「Restore Default Manufacturing Settings」を選択します。
- (10) 「Yes, restore the default settings.」を選択します。
- (11) 自動的に装置が再起動し、POST画面が表示されます。
- (12) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
- (13) 装置のスライドタグに記載されているSerial NumberとProduct IDをシステムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、設定します。



【重要】Product IDとは、『NF8100-242Y』のような型番のことです。

- (14) RBSU設定項目をデフォルト値から変更されている場合は、そのRBSU項目の確認と再設定をします。

● UPS 接続時の注意事項

- ・ UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を無効「Disabled」にしてください。
 - (1) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port を「Disabled」に設定してください。
 - (2) System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status を「Disabled」に設定してください。
- ・ N8181-160(電源ユニット[800W/Platinum])を冗長構成で搭載している場合、以下の設定を変更してください。
System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Advanced Power Options へと進み、「Redundant Power Supply Mode」を「High Efficiency Mode (Auto)」に設定してください。

※ High Efficiency Mode (Odd Supply Standby)、または、High Efficiency Mode (Even Supply Standby)に設定されているお客様については、上記の変更は不要です。

● SAS エキスパンダカード使用時の注意事項

Starter Pack Version S8.10-009.01 に含まれている、SAS エキスパンダカードの下記ファームウェアアップデートモジュール (Ver. 5.08) は、適用しないでください。

[パッケージ名称]

Supplement Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) ? HPE 12Gb/s SAS Expander Firmware for HPE Smart Array Controllers and HPE HBA Controllers
(firmware-smartarray2de15b6882-5.08-1.1x86_64)

詳細につきましては、以下の Web サイトに掲載されている内容を確認してください。

[Starter Pack Version S8.10-009.01]

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-009」を検索)

● N8103-184 SAS コントローラ ご使用時の注意事項

N8103-184 SASコントローラを使用する場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]のStatusが「不明(Unkown)」と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● Smart Storage Battery について

Smart Storage Batteryは、RBSUメニューなどでEnergy Packと表示されることがあります。
適宜、読み替えてください。

● EXPRESSBUILDER ヘルプについて

EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイドで記述が異なる場合は、メンテナンスガイドの記載を優先してください。

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。
サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

● サーバ診断カルテの制限事項

- ・ Windows Server 2019/Windows Server 2016 でサーバ診断カルテを使用する場合は、下記の Web サイトよりモジュールをダウンロードし、インストールしてください。
- ・ NEC サポートポータル
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809>

● データバックアップ時の注意事項

FC コントローラ配下に接続されたデバイスが誤って本体内部蔵のマイクロ SD カードスロットとして認識されてしまう場合や、iStorage を接続しての自動バックアップ中に空の本体内部蔵のマイクロ SD カードスロットを検出して認識されてしまい警告メッセージをポップアップして一時停止する場合があります。

これらにより正常にデータのバックアップを行えないことがありますので、工場出荷時に以下の手順によって、本体内部蔵のマイクロ SD カードスロットを無効化しています。

本体内部蔵の SD カードスロットは使用しませんので、無効化しても通常のサーバー動作には支障ありません。

◆設定手順

システムユーティリティの BIOS/Platform configuration (RBSU)メニューから System Options > USB Options > Internal SD Card Slot を「Disabled」に設定。

● Windows Storage Server OS を使用する際の注意事項

装置を初めて使用する場合、あるいは、OS を再インストールした場合、装置からネットワークケーブルを外した状態で、本コマンドを実行してください。

本コマンドを実行しない場合、ネットワーク機能が正常に動作しない場合があります。

1. 「管理者より実行する」から Windows PowerShell を起動します。
2. 以下のコマンドを実行します。
`>Set-NetOffloadGlobalSetting -NetworkDirect Disabled`
3. プロンプト表示後、以下のコマンドを実行します。
`>Get-NetOffloadGlobalSetting`
4. 表示される画面で、NetworkDirect : Disabled となっていることを確認します。
5. システムを再起動します。

● 複数サーバーの共有フォルダーを統合する機能 (DFS) を利用する際の注意事項

DFS 機能を利用する際の、DFS 名前空間および DFS レプリケーションの作成画面において、サーバーや共有フォルダーを選択指定できない不具合があり、サーバー名や共有フォルダーパスを直接入力いただく必要があります。また、特定画面においては直接入力もできないため、PowerShell コマンドによる回避をお願い致します。

【直接入力いただく項目】

- ・ 管理者ガイド（詳細編）「2.4.1.2 名前空間の新規作成」 手順3
[新しい名前空間ウィザード]画面の名前空間サーバー名
- ・ 管理者ガイド（詳細編）「2.4.1.3 名前空間でのフォルダーの新規作成」 手順3
[フォルダーターゲットを追加]画面のフォルダーターゲット（共有フォルダー）パス名
- ・ 管理者ガイド（詳細編）「2.4.3.2 名前空間での共有と公開」 手順5
[名前空間の参照]画面のサーバー名

【直接入力いただけない項目】

- ・ 管理者ガイド（詳細編）「2.4.2.2 レプリケーショングループの新規作成」 手順4
[新しいレプリケーショングループウィザード]画面のレプリケーションメンバー名

上記の項目は、直接入力による回避ができないため、[新しいレプリケーショングループウィザード]を完了することができません。そのため、[新しいレプリケーショングループウィザード]において設定する内容につきましては、以下の手順で、PowerShellコマンドによる設定を行っていただきますようお願い致します。なお、コマンド例に記載している内容は、管理者ガイド（詳細編）「2.4.2.2 レプリケーショングループの新規作成」に記載の内容と同等です。

1. レプリケーショングループの名前を設定します。
`New-DfsReplicationGroup -GroupName "group1" -DomainName "example.com"`
2. レプリケーショングループのメンバーとなるサーバーを設定します。
`Add-DfsrMember -GroupName "group1" -ComputerName "FILESV1","FILESV2","FILESV3" -DomainName "example.com"`
3. FILESV1をハブメンバー、FILESV2/FILESV3をスポークメンバーとした場合のメンバー間の接続を設定します。
`Add-DfsrConnection -GroupName "group1" -SourceComputerName "FILESV1" -DestinationComputerName "FILESV2" -DomainName "example.com"`
`Add-DfsrConnection -GroupName "group1" -SourceComputerName "FILESV1" -DestinationComputerName "FILESV3" -DomainName "example.com"`
4. レプリケーショングループのメンバーが使用するレプリケートフォルダー名を設定します。
`New-DfsReplicatedFolder -GroupName "group1" -FolderName "DfsReplication" -DomainName "example.com"`
5. 各メンバーにローカルのコンテンツパス、プライマリメンバー、読み取り専用を設定します。
`Set-DfsrMembership -GroupName "group1" -FolderName "DfsReplication" -ComputerName "FILESV1" -ContentPath "D:\DfsReplication" -PrimaryMember $True -DomainName "example.com" -Force`
`Set-DfsrMembership -GroupName "group1" -FolderName "DfsReplication" -ComputerName "FILESV2" -ContentPath "D:\DfsReplication" -ReadOnly $True -DomainName "example.com" -Force`
`Set-DfsrMembership -GroupName "group1" -FolderName "DfsReplication" -ComputerName "FILESV3" -ContentPath "D:\DfsReplication" -ReadOnly $True -DomainName "example.com" -Force`

● ディスプレイポートについて

装置前面のディスプレイポートの動作は、サポートしていません。

● ドライブケージ使用時の注意事項

本製品と、リアドライブケージ N8154-95/99、あるいは、ミッドプレーンドライブケージ N8154-100 を使用する場合は、以下の設定を変更してください。

◆設定手順

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Fan and Thermal Options > Thermal Configuration を「Increased Cooling」に設定してください。

● N8104-173 Wake On LAN 機能のサポートについて

N8104-173 (10GBASE-T 接続 LOM カード(2ch))オプションカードを搭載し、本カードで Wake On LAN 機能を使用する場合は、ポート 1 側をご使用ください。

A) ファームウェア変更に伴う変更点

■ BIOS/Platform Configuration (RBSU) メニューの変更について

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、メニューの一部に変更があります。
下記、変更点を記載します。

(1) Server Availabilityメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Availability」を選択すると、「Server Availability」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
IPMI Watchdog Timer (注1)	[Disabled] Enabled	IPMI に準拠した起動時の (POST) ウォッチドッグタイマー (WDT) を有効にできます。このタイマーは、ユーザーがシステムに対して IPMI コマンドを発行すると無効になり、自動的には無効になりません。 IPMI ウォッチドッグタイマー (WDT) は、POST 中に <F9> キー、または <F10> キーを押すと停止できます。 POST 中の <F9> キー、または <F10> キーを押した以外の場合、WDT は選択された IPMI ウォッチドッグタイマーのタイムアウト期間の後にタイムアウトし、システムは選択された IPMI ウォッチドッグタイマー動作を続行します。
IPMI Watchdog Timer Timeout (注1)	10 Minutes 15 Minutes 20 Minutes [30 Minutes]	サーバーのロックアップが発生した場合にサーバーに対して必要なタイムアウト動作を実行するまでの待機時間を設定できます。
IPMI Watchdog Timer Action (注1)	[Power Cycle] Power Down Warm Boot	サーバーのロックアップによってウォッチドッグタイマーが時間切れになったときのタイムアウト動作を設定できます。

[]: 出荷時の設定

注 1: システム ROM Version 2.54 以降にて利用できるオプションです。

(2) Server Securityメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security」を選択すると、「Server Security」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
UEFI Variable Access Firmware Control (注1)	[Disabled] Enabled	オペレーティングシステムなど他のソフトウェアによる特定の UEFI 変数の書き込みを、システム BIOS で完全に制御できるように設定します。「Disabled」が選択されている場合は、すべての UEFI 変数が書き込み可能です。「Enabled」が選択されている場合、システム BIOS 以外のソフトウェアによって重要な UEFI 変数に加えられる変更はすべてブロックされます。例えば、オペレーティングシステムが新しいブートオプションをブート順序の最上位に追加しようとする、実際にはブート順序の最下位に配置されます。注記: UEFI 変数アクセスのファームウェアコントロールが有効になっている場合、オペレーティングシステムの機能の一部が期待どおりに動作しないことがあります。新しいオペレーティングシステムのインストール中にエラーが発生する場合があります。

[]: 出荷時の設定

注 1: システム ROM Version 2.54 以降にて利用できるオプションです。

B) 誤記訂正

■ iStorage NS500i ユーザーズガイドについて

ユーザーズガイドに誤記がありましたので、以下に訂正いたします。

	誤	正																																		
2章 準備 1. 10. 1 サポートする 最大 DIMM 容量	<ul style="list-style-type: none">・ N8100-242Y … 72GB・ N8100-243Y … 232GB	<ul style="list-style-type: none">・ NF8100-242Y … 72GB・ NF8100-243Y … 232GB																																		
2章 準備 1. 10. 7 メモリ機能に ついて (1) メモリミラー リング機能	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Operations > Advanced Memory Protection」を「Mirrored Memory with Advanced ECC Support」に設定して ください。	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Advanced Memory Protection」を「Mirrored Memory with Advanced ECC Support」に 設定してください。																																		
2章 準備 1. 10. 7 メモリ機能に ついて 2) メモリスペアリング 機能	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) >System Options > Memory Oprations > Advanced Memory Protection」を「Online Spare with Advanced ECC Support」に設定して ください。	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Opions > Advanced Memory Protection」を「Online Spare with Advanced ECC Support」に 設定してください。																																		
2章 準備 1. 10. 7 メモリ機能に ついて (3) フォールトトレラ ントメモリ機能 (ADDDC)	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) >System Options > Memory Oprations > Advanced Memory Protection」を「Fault Tlerant Memory (ADDDC)」に設定してください。	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Advanced Memory Protection」を 「Fault Tlerant Memory (ADDDC)」に設定 してください。																																		
2章 準備 1. 22. 1 RAID システム 構築時の注意事項	<ul style="list-style-type: none">● 各RAID レベルで必要となるハード ディスクドライブの台数が異なり ます。 <table><tr><th rowspan="2">RAID レベル</th><th>RAIDシステム構築に必要 となるハードディスク ドライブの最小数</th></tr><tr><th>標準RAIDコントローラー</th></tr><tr><td>RAID 0</td><td>1</td></tr><tr><td>RAID 1</td><td>2</td></tr><tr><td>RAID 5</td><td>3</td></tr><tr><td>RAID 6</td><td>3</td></tr><tr><td>RAID 10</td><td>4</td></tr><tr><td>RAID 50</td><td>6</td></tr><tr><td>RAID 60</td><td>6</td></tr></table>	RAID レベル	RAIDシステム構築に必要 となるハードディスク ドライブの最小数	標準RAIDコントローラー	RAID 0	1	RAID 1	2	RAID 5	3	RAID 6	3	RAID 10	4	RAID 50	6	RAID 60	6	<ul style="list-style-type: none">● 各RAID レベルで必要となるハード ディスクドライブの台数が異なり ます。 <table><tr><th rowspan="2">RAID レベル</th><th>RAIDシステム構築に必要 となるハードディスク ドライブの最小数</th></tr><tr><th>標準RAIDコントローラー</th></tr><tr><td>RAID 0</td><td>1</td></tr><tr><td>RAID 1</td><td>2</td></tr><tr><td>RAID 5</td><td>3</td></tr><tr><td>RAID 6</td><td>4</td></tr><tr><td>RAID 10</td><td>4</td></tr><tr><td>RAID 50</td><td>6</td></tr><tr><td>RAID 60</td><td>8</td></tr></table>	RAID レベル	RAIDシステム構築に必要 となるハードディスク ドライブの最小数	標準RAIDコントローラー	RAID 0	1	RAID 1	2	RAID 5	3	RAID 6	4	RAID 10	4	RAID 50	6	RAID 60	8
RAID レベル	RAIDシステム構築に必要 となるハードディスク ドライブの最小数																																			
	標準RAIDコントローラー																																			
RAID 0	1																																			
RAID 1	2																																			
RAID 5	3																																			
RAID 6	3																																			
RAID 10	4																																			
RAID 50	6																																			
RAID 60	6																																			
RAID レベル	RAIDシステム構築に必要 となるハードディスク ドライブの最小数																																			
	標準RAIDコントローラー																																			
RAID 0	1																																			
RAID 1	2																																			
RAID 5	3																																			
RAID 6	4																																			
RAID 10	4																																			
RAID 50	6																																			
RAID 60	8																																			
3章 セットアップ 2. 4 設定が必要な ケース >メモリ関連 >メモリRAS機能を使う	[System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Oprations] - [Advanced Memory Protection]を設定してください。	[System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options] - [Advanced Memory Protection]を設定して ください。																																		
5章 付録 1 仕様 欄外 *2	<ul style="list-style-type: none">・ N8100-242Y … 72GB・ N8100-243Y … 232GB	<ul style="list-style-type: none">・ NF8100-242Y … 72GB・ NF8100-243Y … 232GB																																		

■ iStorage NS500Ri メンテナンスガイドについて

メンテナンスガイドに誤記がありましたので、以下に訂正いたします。

	誤	正
2章 便利な機能 1.2.2 BIOS/Platform Configuration (RBSU) (3) Memory Options メニュー	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Operations」を選択すると、 「Memory Options」メニューが表示されます。	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options」を選択すると、 「Memory Options」メニューが表示されます。
2章 便利な機能 1.2.2 BIOS/Platform Configuration (RBSU) (3) Memory Options メニュー (a) Persistent Memory Options メニュー	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Operations > Persistent Memory Options」を選択すると、 「Persistent Memory Options」メニューが表示されます。	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Persistent Memory Options」を選択すると、 「Persistent Memory Options」メニューが表示されます。
2章 便利な機能 1.2.2 BIOS/Platform Configuration (RBSU) (8) Power and Performance Options メニュー (e) Advanced Power Optionsメニュー Redundant Power Supply Mode	システムによる電源の冗長構成の処理方法を設定するには、このオプションを使用します。 「Balanced Mode」では、搭載されているすべての無停電電源装置 (UPS) 間で電源供給を等しく共有します。すべての 「High Efficiency Mode」パラメーターは、スタンバイモードのUPS の半分以上を低消費電力レベルに保つことで、電源効率の高い動作のほとんどに冗長化電源を提供します。「High Efficiency Mode」のパラメーターでは、スタンバイにするUPS をシステムが選択することを可能にします。 「Auto」では、システムグループ内のセミランダムな分布に基づいて奇数または偶数のUPS をシステムが選択することを可能にします。	システムの電源冗長構成の効率モードの設定を行うには、本オプションを使用します。 「Balanced Mode」では、搭載されているすべて (本モデルは最大2台) の電源間で電源供給を等しく共有します。 「High Efficiency Mode」では、搭載されている片側の電源をスタンバイモードにすることにより、低消費電力レベルを保ち、冗長化電源の効率を向上させます。 「High Efficiency Mode」は、スタンバイモードに設定する電源を電源ユニット番号の「奇数 (Odd Supply Standard)」、「偶数 (Even Supply Standard)」を選択することで指定することができます。 「Auto」設定では、システムグループ内のセミランダムな分布に基づいて、システムが電源ユニット番号の「奇数」、「偶数」を自動で指定します。

■ メモリ搭載順序の訂正

ユーザズガイドにおいて、メモリの搭載順序に誤記がありました。
 ついては、下記のとおり訂正いたします。

修正箇所

- ・ Express5800/R120h-1M ユーザズガイド
 2章 準備 1.10 DIMM 1.10.2 D I M Mの増設順序
- ・ Express5800/R120h-2M ユーザズガイド
 2章 準備 1.11 DIMM 1.11.2 D I M Mの増設順序

メモリの搭載順序について

メモリの搭載位置、搭載順序は 1CPU 構成と 2CPU 構成、また、メモリの搭載枚数によって異なります。

DIMM スロット番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
メモリ 搭載 枚数と 搭載 順序	DIMM 1枚								1				
	DIMM 2枚								1		2		
	DIMM 3枚								1		2		3
	DIMM 4枚			4		3			1		2		
	DIMM 5枚			5		4			1		2		3
	DIMM 6枚	6		5		4			1		2		3
	DIMM 7枚	6		5		4		7	1		2		3
	DIMM 8枚			4	8	3	7	5	1	6	2		
	DIMM 9枚	6		5		4		7	1	8	2	9	3
	DIMM 10枚	6		5	10	4	9	7	1	8	2		3
	DIMM 11枚	6		5	11	4	10	7	1	8	2	9	3
	DIMM 12枚	6	12	5	11	4	10	7	1	8	2	9	3

(次ページに続く)

・ CPU1 と CPU2 を実装している場合のメモリ搭載位置、搭載順序

DIMM スロット番号	CPU2												CPU1											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
メモリ搭載枚数と搭載順序								2												1				
DIMM 2枚								2												1		3		
DIMM 3枚								2												1		3		
DIMM 4枚								2		4										1		3		
DIMM 5枚								2		4										1		3		5
DIMM 6枚								2		4		6								1		3		5
DIMM 7枚								2		4		6								1		3		
DIMM 8枚			8		6			2		4										1		3		
DIMM 9枚			8		6			2		4										1		3		5
DIMM10枚			10		8			2		4		6								1		3		5
DIMM11枚			10		8			2		4		6	11		9		7			1		3		5
DIMM12枚	12		10		8			2		4		6	11		9		7			1		3		5
DIMM13枚	12		10		8			2		4		6	11		9		7		13	1		3		5
DIMM14枚	12		10		8		14	2		4		6	11		9		7		13	1		3		5
DIMM15枚	12		10		8		14	2		4		6			7	15	5	13	9	1	11	3		
DIMM16枚			8	16	6	14	10	2	12	4					7	15	5	13	9	1	11	3		
DIMM17枚			8	16	6	14	10	2	12	4			11		9		7		13	1	15	3	17	5
DIMM18枚	12		10		8		14	2	16	4	18	6	11		9		7		13	1	15	3	17	5
DIMM19枚	12		10		8		14	2	16	4	18	6	11		9	19	7	17	13	1	15	3		5
DIMM20枚	12		10	20	8	18	14	2	16	4		6	11		9	19	7	17	13	1	15	3		5
DIMM21枚	12		10	20	8	18	14	2	16	4		6	11		9	21	7	19	13	1	15	3	17	5
DIMM22枚	12		10	22	8	20	14	2	16	4	18	6	11		9	21	7	19	13	1	15	3	17	5
DIMM23枚	12		10	22	8	20	14	2	16	4	18	6	11	23	9	21	7	19	13	1	15	3	17	5
DIMM24枚	12	24	10	22	8	20	14	2	16	4	18	6	11	23	9	21	7	19	13	1	15	3	17	5

(優先度高) N8102-711 → N8102-710 → N8102-714 → N8102-709 → N8102-708 (優先度低)

■ 本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

T E L : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC



* CBZ-019491-002-13 *

2021年 12月 16版